

2002) について、主語に「子どもが」を挿入する等の若干の修正を加えて使用した。「非常にあてはまる」～「全くあてはまらない」までの5件法で回答してもらった。因子分析(バリマックス回転, 主因子法)を行ったところ、負荷量が.30未満だった6項目を除いたすべての項目が一つの因子にまとまったため、この13項目の合計得点を算出し「非統制的行動」とした(表1参照)。クロンバックの α 係数は0.86であり、高い内的整合性があることが確かめられた。

表 1. 否定的養育行動の因子分析結果

質問項目	因子 1
・子どもを怒鳴り出すと止まらなくなる	.73
・子どもが言ってわからなければ叩いたりする	.70
・子どもを思わず強い口調で叱ってしまう	.69
・子どもを思わず叩いてしまう	.68
・思わず子どもが傷つくようなことを言ってしまう	.68
・なかなか子どもを許せない	.61
・子どもが言うことを聞くまで叱る	.51
・子どもをいったん叩くと止まらなくなる	.51
・子どもを思わず無視してしまう	.49
・思わず子どもを外に出す	.47
・子どもに穏やかに言い聞かせる*	-.43
・子どものよいところを見つけてほめる*	-.36
・思わず子どもをどこかに閉じ込める	.33
寄与率(%)	32.39

注：*は逆転項目

② **肯定的養育行動**：肯定的養育行動として、加藤(1991)の養育態度に関する質問項目の中から、肯定的な養育行動(あるいはその逆転項目)を表していると考えられる受容、拒否、安定、行動モデルの軸の15項目を

使用した。これらの項目は、保育者から具体的な場面を記述し、母の実際の行動をあり、MS式養育態度と関連が確認されている(加藤, 1991)。母親には、項目の内容が普段の状況に照らして見られるような状況に当てはまるかどうか想像で答えてもらった。質問項目は、「わが子」を「子ども」に変更する等の若干の修正を加え、「非常にあてはまる」～「全くあてはまらない」までの5件法で回答してもらった。因子分析(バリマックス回転, 主因子法)を行ったところ、負荷量が.30未満だった5項目を除いた10項目について2つの因子が抽出されたため、第1因子を「共感的行動」、第2因子を「援助的行動」と命名し、それぞれの合計点を算出した(表2参照)。クロンバックの α 係数は、第1因子は0.71、第2因子は0.68で、内的整合性があることが確かめられた。

③ **育児不安**：牧野(1982)の育児不安測定尺度から、「子どもを育てていると思う」の否定的内容に関する8項目を使用し、「よくあてはまる」～「全くない」までの4件法で回答し、その合計得点を算出した。クロンバックの α 係数は0.75だった。

④ **子どもの気質的行動特徴**：子どもの気質的行動特徴として、「だだをこねて、手をのけられなことがある」などの子どもが育てにくさに関する尺度9項目(北海道青少年育成協会, 2002)に主語に挿入する等の若干の修正を加えて使用した。「非常にあてはまる」～「全くあてはまらない」までの5件法で回答し、その合計得点を算出した。クロンバックの α 係数は0.71だった。

表 2. 肯定的養育行動の因子分析結果

質問項目	因子 1	因子 2
[第 1 因子 共感的行動]		
・ 醤油などを自分で注いであふれさせてしまった子どもに、叱らずに「少し多かったね」などと気持ちを汲む	.63	.14
・ もし子どもが転んで泣いたら「前を向いて歩かないからでしょう」などと叱る*	-.57	.03
・ 一緒に出かけるときに、たとえ子どもの支度が遅くてもイライラせずに「一人でできたね」などと認める	.57	.14
・ もし子どもが「お母さん遊ぼうよ」とくっついてきたら「あっちに行って遊びなさい」などと言って、自分のしたいことをする*	-.54	.20
・ もし子どもが遊びに夢中になってお漏らしをしてしまったら、叱らずに「間に合わなかったね」などと言う	.49	.13
[第 2 因子 援助的行動]		
・ もし子どもが仲間との遊びに入れずにいたら、「一緒に遊びたいから入れて」などと代弁する	-.10	.59
・ もし、友だちが遊んでいるのに自分の子どもがしり込みして仲間に入れずにいたら、一緒に付き合っただけを除く	.00	.55
・ もし子どもがハサミで紙をうまく切れないとき、一緒に紙を持ったり刃が直角に当たるように手を添えて助ける	.15	.51
・ 着替えなどをするとき「お母さんと競争しよう」などといって隣で同じようにやってみせる	.23	.48
・ もし外出先で子どもがだっこをせがんできたら、「もう疲れちゃったの？困ったね」などと子どもの気持ちを受け止めてから歩けるように励ます	.25	.41
・ 歯医者などで待ち時間が長く、子どもが退屈しそうなとき、小さい声で手遊びや絵本などを読んで楽しく過ごす	.23	.39
・ 子どもと一緒に遊んでいるとき、子どもと同じレベルで友だちのように付き合っただけで遊べる	.26	.34
寄与率 (%)	15.40	13.84

注：*は逆転項目

⑤ **子どもへの発達期待**：子どもへの発達期待について、日米の比較研究（東ら，1981）で日本とアメリカの母親で差が示された領域の中から、母親の負担も考慮して、情緒的成熟，自立，社会的スキル，言語による自己主張から 20 項目を使用した。「自分が考えていること」を「自分の考え」に変更する等、語句に若干の修正を加えた。回答は、子どもの発達に関する質問項目の内容について母親が子どもに何歳頃までにできるようになることが望ましいと考えているかを、「4 歳以前」「4～5 歳」「6 歳過ぎ」の 3 件法で選

択してもらった。元の低位尺度のままではクロンバクの α 係数が低かったため、因子分析（バリマックス回転，主因子法）を行ったところ，3 つの因子が抽出された（表 3 参照）。そこで，第 1 因子を自立期期待，第 2 因子を自己抑制期期待，第 3 因子を自己主張期期待と命名し，それぞれの合計点を算出した。それぞれの得点が高いほど，子どもに対してより遅い年齢での発達を期待していることを表している。クロンバクの α 係数は，第 1 因子は 0.81，第 2 因子は 0.73，第 3 因子は 0.77 だった。

表 3.子どもへの発達期待の因子分析結果

質問項目	因子 1	因子 2	因子 3
[第 1 因子 自立期待]			
・自分の考えを他の人たちにちゃんと主張できる	.59	.08	.33
・質問されたら、はきはき答える	.59	.28	.24
・きまったお手伝いができる	.57	.44	-.02
・自分の考えやその理由を他の人にわかるように説明できる	.53	.01	.31
・友だちと遊ぶとき、リーダーシップがとれる	.48	.12	.26
・一人で電話がかけられる	.47	-.06	.08
・一人で遊んでいられる	.44	.37	.08
・自分の脱いだ服を始末できる	.43	.40	.11
・友だちの気持ちに思いやりを持つ	.40	.24	.07
・外に一人で遊びに行ける	.30	.13	.29
[第 2 因子 自己抑制期待]			
・大人に手伝ってもらわずに、一人で食事ができる	.04	.65	.20
・やたらに泣かない	.02	.52	.06
・自分のおもちゃを友だちに貸してあげて一緒に遊べる	.05	.52	.24
・欲求不満になったときでも泣かずに我慢できる	.21	.49	.26
・いつまでも怒っていないで、自分で機嫌を直す	.29	.44	.33
・赤ちゃんことばを使わなくなる	.39	.43	-.08
[第 3 因子 自己主張期待]			
・納得がいけない場合は説明を求めることができる	-.01	.29	.71
・友達を説得して、自分の考えやしたいことを通すことができる	.28	.22	.65
・友達の考えが合わないとき、けんかをせずに適当な解決方法を見つけることができる	.37	.09	.56
・意見や希望を聞かれたらはっきり述べる	.43	.13	.52
寄与率(%)	15.31	12.01	11.27

結 果

肯定的・否定的養育行動の特徴

まず、「非統制的行動」と基本的属性である母親の就業の有無、年齢、学歴、子どもの年齢、性別、出生順位との関連を検討した。その結果、母親の就業の有無による差が示され、専業主婦の母親の方が有職の母親よりも非統制的行動を行うことが示された（無職： $M=32.59$, $SD=8.53$, 有職： $M=30.05$, $SD=7.40$, $t=2.17$, $p<.05$ ）。また、子どもの年齢

との関連が示され、子どもの年齢が高いほど「非統制的行動」を行っていた（ $r=.19$, $p<.05$ ）。

次に、肯定的養育行動について基本的属性である母親の就業の有無、年齢、学歴、子どもの年齢、性別、出生順位との関連を検討した結果、「共感的行動」について母親の就業の有無による差が示され、有職の母親の方が専業主婦の母親よりも共感的行動を行うことが示された（無職： $M=14.88$, $SD=3.53$, 有職：

M=16.15, SD=3.25, t=-2.57, p<.05)。また, 子どもの年齢との関連が示され, 子どもの年齢が低いほど共感的行動, (r=-.21, p<.01), 援助的行動 (r=-.24, p<.01)をそれぞれ行うことが示された。

肯定的・否定的養育行動と各指標との関連

肯定的・否定的養育行動と育児不安, 子どもの気質, 子どもへの発達期待の各指標との関連を調べるために, 相関

分析を用いて検討した。その結果(表4参照), 「非統制的行動」については, 育児不安, 子どもの気質との間に有意な正の相関が, 発達期待の自己抑制期待, 自己主張期待との間に有意ではないが正の相関がある傾向が示された。また, 「共感的行動」には育児不安との間に有意な負の相関が, 「援助的行動」には育児不安, 発達期待の自己主張期待との間に有意な負の相関があることが示された。

表 4. 肯定的・否定的養育態度と各指標との相関

	育児不安	気質	発達期待		
			自立期待	自己抑制期待	自己主張期待
統制的養育態度	.51***	.24**	.06	.13 [†]	.14 [†]
共感的態度	-.37***	-.07	-.06	-.12	-.08
援助的態度	-.17*	-.08	.01	.00	-.17*

表 5. 肯定的・否定的養育態度を目的変数とした階層的重回帰分析

[予測変数]	[目的変数]					
	非統制的養育行動		共感的行動		援助的行動	
	β	Δ R ²	β	Δ R ²	β	Δ R ²
1 子どもの年齢	.26***	.04*	-.23**	.05**	-.29**	.06**
母親の就業の有無	-.01		.04		.01	
2 育児不安	.41***	.21***	-.32***	.11***	-.05	.01
3 気質	.21***	.03**	-.04	.00	-.12	.01
4 自立期待	-.04	.03*	.06	.03 [†]	-.04	.04 [†]
自己抑制期待	-.14 [†]		.15 [†]		-.02	
自己主張期待	-.04		-.01		.23*	
R ²	.32***		.19***		.12**	

肯定的・否定的養育行動を予測する要因

肯定的・否定的養育行動を予測する要因を調べるために, 予関連「非統制的行動」, 「共感的行動」, 「援助的行動」を目的変数とした階層的重回帰分析を行った。まず, 制御変数として子どもの年齢, 母親の就業の有無を投入し, 次に子どもの気質, 最後に子どもへの発達期待(自立期待,

自己抑制期待, 自己主張期待)の順で投入した。なお, 投入した変数の VIF の値は 1.04~1.78 の範囲で, 多重共線性の問題は見られなかった。その結果(表5参照), 「非統制的行動」「共感的行動」「援助的行動」すべてにおいて子どもの年齢が有意に予測し, 子どもの年齢が高いほど肯定的養育行動を行うこと, 子どもの年齢が低いほど肯定的養育行動を行うことが示された。「非統制的行動」に

も測上母気と非と達に齡待的向
 どの予の，い「こ發待年期傾
 子に数らとくのの期のいを統る
 ，意係かここに親すへ制遅制非す
 安有定といて母測も抑，抑「測
 不れ決こ高育が予ど，れ己の予
 児ぞのたがをとを子はさ自親を
 育れれつ安もこ」。て示の母さ
 ，そぞだ不どる動たいがもが低た。
 はがれ意児子い行れつ向どとのれ
 て質そ有育にて的さに傾子こ」ら方，
 つのし昇親質感統が期有です行が

レとな，2008；1982のを影れ育，
 ト齡い，母状態なら養ててわ動く定さら
 ス年て，母状態なら養ててわ動く定さら
 児のれ，野は理行考直と応くのて，
 育もさ藤，野は理行考直と応くのて，
 ・ど示無，牧齡心育とが由にしもし動もと
 安子は・無，年な養る齡理達歳ど減行らる
 不は連牧，も定直でのす齡的，度養どで
 児て関荒，ど否，因も響年目り容的のめ
 育いな（田子，のに要ど影ののた許定動た
 ，つ意め桂），へずる子にもけしる否行く
 てに有た・ど児さす。動どつとす，育い。
 しスのい石な育介響る行子しう対ど養てる

考 察

ど育れさ，取っ規，が
 子養そ定安を行をてと
 の的が規不待を動いこ
 期定動に児期討行つる
 児肯行因育達検育に得
 幼の育要，発な養徴を
 ，親養なて，的，特唆
 は母的うい質包括果の示
 する定よつ気包括果の示
 研究す否のののののののの
 本に動れるど上。すくきま
 も行ぞれりた定いで

分が知行所能。安とをを、知働、の有あ、の側養動影て文づめ、重どさ的あ、動区面認育、可た不こ動動が認にる動もで、を的的行的のつは意味た、つてが定括的あ、行た側と養てるれ児う行行の待あ行ど上の、討た知定助自か動意、る、動規包要育的動いつなさ育行育育が親期で育子るも、検れ認否援独わ行や、あ、つて動規包要養い緒行すよ異峻のを養養な母達の養くする、でらのい、のは育値、あ、つて動規包要的と情育やにが示親け的的つは発果の続援が、究限親すは待か養価、の、あ、つて動規包要定動の養し分徴が母か定定はにる効親に支なる。研は母やて期ののの、あ、つて動規包要否行親い映区特と、き否肯に動あが母れにつれ、本動にれい達る定、の、あ、つて動規包要に育母す反たのこは働の、と行で方、そ切に、行、行特さつ発れ、特、る、あ、つて動規包要特養、やがっ因るとる種りこ育えるたは適見えし育、映、に、ら、あ、つて動規包要、的にし面い定あこめるたる養考けつにを考か養り、映、に、ら、あ、つて動規包要れ定上映側と規がの低あめめのないなら達なとしたあが行同がな、に、あ、つて動規包要さ肯以反的動の性こをは低高別的きとさ発効る、つて面育と響い化け、(Deater-Deckard & Dodge, 1997), 日本を意味なるを、あ、つて動規包要

引用文献

- Anthony, L. G., Anthony, B. J., Glanville, D. N., Naiman, D. Q., Waanders, C., & Shaffer, S. (2005). The relationships between parenting stress, parenting behaviour and preschoolers' social competence and behaviour problems in the classroom. *Infant and Child Development*, 14, 133-154.
- 東洋・柏木恵子・ヘス, R. D. (1981). *母親の態度・行動と子どもの知的発達：日米比較研究*. 東京：東京大学出版会.
- 荒牧美佐子・無藤隆. (2008).

がい期とら行援達動に発す統がに自のするさ、い、の、の、い、意、待、の、々、要、る、子、る、識、達、な、可、母、期、育、も、て、る、さ、お、達、こ、え、助、発、行、達、る、や、た、動、の、で、ラ、す、て、す、起、り、て、て、安、も、な、い、有、こ、期、も、様、る、れ、は、け、意、発、々、い、は、達、安、気、も、て、る、く、に、発、す、考、援、て、や、育、発、あ、れ、し、つ、行、も、齢、プ、響、れ、対、生、あ、れ、し、不、い、れ、は、い、達、ど、え、ら、動、か、が、な、様、す、後、発、安、気、お、が、に、動、て、た、と、に、し、び、養、の、で、さ、か、か、の、ど、年、が、影、さ、に、て、で、さ、と、児、き、し、育、児、不、安、に、な、発、子、で、与、え、行、き、親、う、の、や、今、る、不、の、に、要、て、行、し、果、た、特、と、遊、る、も、え、定、し、な、感、子、い、と、に、示、も、つ、動、示、因、育、大、も、と、育、児、不、安、に、な、発、子、で、与、え、行、き、親、う、の、や、今、る、不、の、に、要、育、育、と、を、れ、が、由、の、す、ど、考、規、は、共、が、遅、こ、動、も、ど、よ、行、が、定、は、ど、か、と、育、児、不、安、に、な、発、子、で、与、え、行、き、親、う、の、や、今、る、不、の、に、要、な、養、因、割、さ、待、理、も、助、子、な、て、る、で、親、て、る、行、と、子、に、育、響、規、響、ほ、の、期、待、の、て、い、低、た、響、が、養、接、の、の、自、さ、れ、お、育、ど、検、く、的、い、定、役、峻、期、た、ど、援、的、的、つ、れ、意、動、母、い、す、育、こ、も、応、養、影、影、れ、た、期、待、の、高、し、影、性、の、直、め、ど、は、映、入、に、を、子、な、い、質、く、規、な、示、達、し、子、に、め、識、よ、ら、有、行、つ、待、養、る、ら、反、な、の、ら、の、そ、つ、発、達、見、ら、の、立、に、能、親、に、た、に、か、反、に、動、け、や、的、的、の、し、そ、重、た。影、動、体、る、る、待、考、に、制、制、を、向、が、ど、的、よ、不、と、期、る、な、し、も、連、(a11 p s > . 22), 高、し、影、性、の、直、め、ど、は、映、入、に、を、子、な、い、も、響、が、新、る、に、行、具、あ、す、期、と、的、統、い、抑、達、方、向。緒、る、児、こ、達、べ、は、か、ど、関、ら、育、質、養、で、る、も、の、に、期、待、行、を、養、意、ト、た、か、う、の、否、制、し、動、行、包、果、定、ど、影、て、待、が、れ、動、助、を、で、対、達、い、計、非、お、己、発、の、傾、た、情、れ、育、た、発、比、で、し、子、な、か、は、気、な、因、だ、ど、も、的、を、養、能、親、待、児、含、明、だ、母、の、行、助、の、つ、そ、動

- 育児への負担感・不安感・肯定感とその関連要因の違い：未就学児を持つ母親を対象に．*発達心理学研究*，19，87-97.
- Belsky, J. (1984). The determinants of parenting. *Child Development*, 55, 83-96.
- Borkowski, J. G., Ramey, S. L., & Bristol-Power(Eds.) (2002). *Parenting and the child's world: Influence on academic, intellectual, and social-emotional development*. New Jersey: Lawrence Erlbaum Associates.
- Crnic, K. A., & Greenberg, M. T. (1990). Minor parenting stress with young children. *Child Development*, 61, 1628-1637.
- Deater-Deckard, K., & Dodge, K. A. (1997). Externalizing behavior problems and discipline revisited: Nonlinear effects and variation by culture, context, and gender. *Psychological Inquiry*, 8, 161-175.
- Dodge, K., Pettit, G., & Bates, J. (1994). Socialization mediators of the relation between socioeconomic status and child conduct problems. *Child Development*, 65, 649-665.
- 福田佳織．(2003)．夕食場面における母親・父親の幼児への摂食促し行動と幼児の情動状態との関連：家族システム論的視点から．*発達心理学研究*，14，161-171.
- 花田裕子・坂原美保子・寺岡征太郎．(2005)．幼稚園に子どもを通園させている母親の育児不安と児童虐待傾向．*長崎大学医学部保健学科紀要*，18，5-8.
- 長谷川麻衣．(2008)．母親の育児ストレスと母子関係：縦断研究による検討．*発達研究*，22，37-48.
- 北海道青少年育成協会．(2002)．北海道における少子化に関する研究：育児をめぐる家族関係と児童虐待に関する研究，Vol.4.
- Honjo, S., Mizuno, R., Ajiki, M., Suzuki, A., Nagata, M., Goto, Y., & Nishide, T. (1998). Infant temperament and child-rearing stress: Birth order influences. *Early Human Development*, 51, 123-135.
- 柏木恵子．(1988)．幼児期における「自己」の発達：行動の自己制御機能を中心に．東京：東京大学出版会．
- 加藤邦子．(1991)．母親の養育態度についての一研究．*家庭教育研究所紀要*，13，161-167.
- 小林真．(1997)．母親のしつけスタイルと幼児の社会的行動との関連．*上田女子短期大学紀要*，20，69-77.
- 厚生労働省．(2003)．子育て支援等に関する調査研究．厚生労働省．(2011)．平成21年度全国家庭児童調査．
- Liu, L., & Wang, M. (2015). Parenting stress and children's problem behavior in China: The mediating role of parental psychological aggression. *Journal of Family Psychology*, 29, 20-28.
- 牧野カツコ．(1982)．乳幼児を持つ母親の生活と〈育児不安〉．*家庭教育研究所紀要*，3，34-56.
- Mash, E. J., Johnston, C., & Kovitz, K. (1983). A comparison of the mother-child interactions of physically abused and non-abused children during play and task situations. *Journal of Clinical Child Psychology*, 12, 337-346.
- 宮本政子・舟越和代・中添和代・時岡恵美・森美代子・渋谷幸彦．(2000)．乳幼児を持つ母親の育児不安の現状とその要因．*香川県立医療短期大学紀要*，2，115-121.
- 水野里恵．(1998)．乳児期の子ども気質・母親の分離不安と後の育児ストレスとの関連：第一子を対象にした乳幼児期の縦断研究．*発達*

- 達心理学研究, 56-65.
- 森下正康. (2000). 幼児期の自己制御機能の発達(2): 親子関係と幼稚園での子どもの特徴. 和歌山大学教育学部教育実践研究指導センター紀要, 10, 117-126.
- 森下順子・森下正康. (2006). 幼児の気質が母親の行動特徴と養育態度に及ぼす影響. 和歌山大学教育学部紀要: 教育科学, 56, 43-50.
- 三鉢泰代. (2009). 幼児期の子どもを持つ親の養育スキルに関する研究: 親の養育スキルと子どもの行動傾向との関連. 発達研究, 23, 57-72.
- 石 曉玲・桂田恵美子. (2008). 幼児の情緒的・行動的問題に関わる諸要因: 母親の育児不安と早期保育および子どもの生活状態からの検討. 家族心理学研究, 22, 129-140.
- 島 義弘・浦田愛子. (2014). 発達期待と養育態度が母親の読み聞かせの意義の認識と読み聞かせの方法に与える影響. 鹿児島大学教育学部研究紀要: 教育科学編, 65, 125-133.
- 園田菜摘. (2012). 母親の育児不安に関する研究: サポート, 子どもの気質, 養育行動との関連. 横浜国立大学教育人間科学部紀要 I, 14, 41-47.
- 末盛 慶. (2008). 親の養育行動の規定要因に関する理論と先行研究: 社会的文脈を中心に. 日本福祉大学社会福祉論集, 118, 33-56.
- 高橋桂子・佐野綾香. (2010). 父親から母親への情緒的サポートが母親の育児不安の緩和に及ぼす影響. 新潟大学教育学部研究紀要, 2, 165-170.
- 武井祐子・寺崎正治・門田昌子. (2006). 幼児の気質特徴が養育者の育児不安に及ぼす影響. 川崎医療福祉学会誌, 16, 221-227.
- 戸田須恵子. (2006). 母親の養育態度と幼児の自己制御機能及び社会的行動との関係について. 北海道教育大学釧路校研究紀要, 38, 59-69.
- 富田早苗・二宮一枝. (2014). 乳幼児期における母親の就労希望と育児負担感との関連. 小児保健研究, 73, 308-315.